

2021年11月 JICA 月次レポート

対象地域における事業導入およびベースライン調査

- 2021年11月16日～11月22日（事業の導入）
- 2021年11月29日～12月6日（ベースライン調査のデータ収集）

<活動状況>

活動の対象地域であるワキソ県・ブタンバラ県・ムベンデ県、それぞれの県の最高責任者である CAO（Chief Administrative Officer）と連携を取りながら、事業の導入を始めた。まず、CAO へ表敬訪問の際には、（JICA からの）CAO への紹介状、Global Bridge Network（GBN）、JICA、SORAK との間で交わしたミニッツ（合意書）や事業計画書などの書類を持参し、本事業の説明・紹介をした。その際に、各県の地方政府にて、以下の学校を対象校として選抜してもらった。

下記、*各県にて選抜した対象校（全 30 校）参照

以下の各県にて選抜された対象校にて、ベースライン調査を開始した。データ収集の作業は 12 月 6 日まで継続する。よってベースライン調査の詳細は、12 月の月次報告書、及びベースライン調査報告書にて明らかにする予定である。

<*各県にて選抜した対象校（全 30 校）>

ムベンデ県	ワキソ県	ブタンバラ県
◇ Christ the King Nkadwa	◇ Lwadda Church of Uganda primary school	◇ Butalunga Catholic School
◇ Kabbowa primary school	◇ Kitanda Church of Uganda primary school	◇ Butende UMEA
◇ Kasaana Church of Uganda	◇ Ssanga Church of Uganda primary school	◇ Kitagobwa Catholic School
◇ COWADISA primary school (Kibalinga Sub- County)	◇ Buwambo Church of Uganda primary school	◇ Lwamasaka UMEA
◇ Kategga Primary School	◇ Kirolo UMEA primary schools	◇ Kiwala UMEA (Ngando Sub- County)
◇ Dyangoma Primary School	◇ Kigoogwa Moslem primary school	◇ Nkokoma Catholic School
◇ Ikular Primary school (Kigando Sub- County)	◇ Kitungwa church of Uganda primary school (Gombe Division)	◇ Nawango Church of Uganda
◇ Kiyiita primary school	◇ Maganjo UMEA primary school	◇ Bule UMEA (Bulo sub- county)
◇ Kassasa Primary School	◇ Jinja Karoli primary school	◇ Ntolomwe UMEA
◇ Gwanika primary school (Nabingoola Sub- County)	◇ 10-Kanyange Mixed primary school (Nabweru Division)	◇ 10-Kayenje Catholic School in (Gombe Sub- County)

<事業による効果的な影響およびもたらした変化>

本事業は女子生徒が安心して通学できるような状況の改善に希望が持てると各県で歓迎された。また、本事業は様々な学校、例えば、在校生が多い学校も、支援がほとんど受けられていないような学校も、いずれの学校も支援する事業であると認知された。

ブタンバラ県ではこの事業がきっかけとなり、女性調査官を募集・雇用する必要があると認識した。これは本事業が女性に関連する内容であるにも関わらず、県内の教育管理部には女性が一人も在籍していないことに気付いたからである。これを受け、CAO は月経時の衛生管理事業における経過観察をより効果的に行うことができる女性調査官をすぐに雇用するとの意向を示した。また本事業の実施者である JICA、GBN、SORAK は WASH（Water, Sanitation and Hygiene:水と衛生）実施においても重要なパートナーになると認識された。

ムベンデ県では、県の学校調査官が女子生徒の出席率向上につながる活動だと喜んだ。特に本事業は長期ロックダウン後の現在にふさわしいプロジェクトであるとし、SORAK をはじめとするパートナーに感謝を示してくれた。

ワキソ県では、県の副責任者がこの事業を歓迎し、その後プロジェクトチームを県の教育長に紹介してくれた。教育委員は支援が届いておらず手を付けられていない地域も対象にしていることに感心し、ナンサナ市の管轄下にあるナブウェル及びゴンベでの活動を勧めてくれた。ナンサナ市での滞在中、市の教育長であるルワンガ氏にも歓迎され、彼はその場ですぐに活動対象校 10 校を選定してくれた。その後紹介された副書記官は SORAK の尽力に感謝し、ナンサナ市での活動を正式に受け入れた。

どの県の責任者も JICA という日本の国際協力機構について常々耳にし、様々な分野の発展において重要なパートナーであることを認めており、本事業が JICA の事業であることから、不十分な教室のスペースやトイレの不足など様々な他の課題に対しても支援してくれるのではないかと期待を持った。SORAK は本事業が女子トイレの改善を目的とした限定的なパイロットプロジェクトであることを説明したが、県の責任者の表敬訪問においても、想定以上のサポートを期待されていることを確認した。

<直面した問題>

- ブタンバラ県への表敬訪問時、CAO（県の最高責任者）が他の会議に出席しており長時間待たなければならなかったが、その時間を使って県議長と会うことができた。
- ンガンド地域のインターネット接続は非常に弱く、調査チームがオンラインのアンケート（ネットを通じた質問票）を実施することが困難であった。オンラインアンケートが実施できればリアルタイムで回答を得てデータ収集ができるが、地域のネット環境によりできなかった。そこで、音声を録音しておきインターネットが繋がる場所に移動した後に対応することで対処した。
- 多くの部族で構成されるムベンデ県にて、ローカル言語に馴染みのないプロジェクトチームのスタッフが対象校にて英語を話せない女子生徒（英語はウガンダの公用語）とのコミュニケーションをする際に言葉の壁が生じたが、現地のローカル言語が分かる事業のボランティアに女子生徒との通訳を担ってもらうことで対応し

た。

- ワキシ県では、雨季のため道路状況が悪く、予定を翌日などに変更せざるを得ない状況となった。しかし、このような状況に忍耐強く向き合い、個別に日程を調整することで予定通り事業を実施した。

<教訓>

政府は現在、テロの脅威増加に伴い、NGO や市民団体と協働することに関して非常に敏感になっている。これは NGO の中には政治的目的をもって活動し、他の団体に不利益をもたらすような組織が存在するからである。活動を円滑に行うためには県の地方政府機関やセキュリティオフィスに前もって活動内容を通知することが重要であることを学んだ。

<活動写真>



ブタンバラ県での事業導入

左から順に、ブタンバラ県プログラムオフィサー、SORA 代表、ブタンバラ県最高責任者、ムベンデ県プログラムオフィサー、ブタンバラ活動実施チーム代表



ワキシ県ナンサナ市での事業導入

左から順に副書記官、SORAK 代表、県教育長。
教育長に事業計画書を渡している様子（ナンサナ市本部にて）



ムベンデ県での事業導入

左から学校活動調査官、県の学校調査官、SORAK 代表
（ムベンデ県教育委員オフィスにて）



女子生徒たちとのフォーカスグループディスカッションの様子

（ワキシ県ナンサナ市ゴンベ サンガ小学校）



男子生徒たちとのフォーカスグループディスカッションの様子

（ムベンデ県チガンド準郡 イクラ小学校）



事前調査の前に説明を受ける生徒たち

(ワキソ県ナンサナ市ナブウエル マンガンジョ UMEA 小学校)



トイレの現況

(ワキソ県、ナンサナ市、ゴンベのチタンダ小学校)



女子生徒によるフォーカスグループディスカッション

(ムベンデ県チバリンガ準郡 カウオディサ小学校)



ナンサナ市教育長へのインタビュー

<関係者のコメント>



ブタンバラ県 CAO (最高責任者)

「今回の月経時の衛生管理事業の導入にあたってブタンバラに女性の調査官が在籍していないことに気が付きました。女性を優先的に雇用できるように人事部と連携し、採用に努めます。」



ムベンデ県チバリンガ準郡カサナ・ウガンダ教会小学校の PTA メンバー

「この事業を私たちの学校で実施して下さることに感謝します。この事業は女子生徒が生理用ナプキンを手にし、安心して学校に通える手助けとなります。我々はいつも生徒の母親たちにナプキンとして使うために布切れを持たせるように伝えています。しかしこれは決して快適なものではなく陰部を傷付けてしまうこともありますし、何度も洗わなければならないので結局家にいることを選んでしまうのです。ナプキンが買えないために布を洗い続けているのです。」



SORAK 代表

「SORAK はこの度 GBN 及び JICA とパートナーシップを結んだことに関し、大変喜ばしく思っております。ウガンダの発展に常に貢献されている JICA と共に活動できる機会を頂けるのは非常にありがたいことであります。今回訪問した行政機関をはじめ様々なプロジェクトサイトの関係者が JICA からのさらなる支援に期待しております。」